

## 平成 27 年度海外短期研修報告書

オーストラリア夏期英語研修(平成 27 年 8 月 31 日～9 月 25 日)

都市教養学部都市教養学科法学系 2 年 福島 梓

私にとって初海外であった、オーストラリアにあるマッコーリー大学への 4 週間の短期留学。私は最初、この研修に対して、すごく不安でいっぱいでした。しかし、行ってみると、留学は楽しく、あっという間に 4 週間が終わってしまいました。

午前中に行われた All British English の授業。最初は、英語が聞き取れずに苦劳しましたが、研修後半になると、授業内容もほとんど理解できるようになりました。私のクラスは中国人、アラブ人、日本人で構成された 15 人ほどのクラスでした。中国人は、積極的に発言していたので、私も負けるまいと授業で発言しました。先生は英語を熱心に教えてくれ、英語を学ぶ刺激を与えてくれました。授業では、Grammar、Speaking、Listening、Writing について学び、英語の勉強法を色々紹介してもらいました。また、日本人グループで Obesity について発表し、スライドの作り方や発表の仕方に対してアドバイスをもらいました。休憩時間には、先生がケーキを作ってきてくれたり、みんなでお菓子を持ち寄り、モーニングティーに行ったり、時には誕生日会を行ったり、クラスの仲間と楽しい時間を過ごしました。



マッコーリー大学が主催してくれたバディプログラムでは、日本語に興味を持つマッコーリー大学の生徒と出会うことができました。私たちは、バディと平日はお昼ご飯を一緒に食べたり、午後はボーリングなどをして、一緒に遊んだり、土日と一緒にシドニー観光をしました。バディとは私の好きなジャニーズの話をしたり、スラングを教えてもらったりして、良き話し相手となってくれました。バディたちは最終日、空港に来てくれて、私たちを見送っ

てくれました。今でも彼らとは LINE などの SNS を通じて、連絡を取り合っています。

このオーストラリア短期留学のメインといえるホームステイ。私は中華系の家にホームステイしました。家族構成はホストマザー1人のみだったので、夜ご飯の時間には英会話をたっぷり味わうことができました。英語が理解できなかったり、話が通じなかったりして、コミュニケーションをとることには苦労しました。しかし、ホストマザーは、私の英語が間違っていたら、訂正してくれ、また色々な英語表現を教えてくださいました。ホストマザーは私にとって一番身近な英語の先生でした。ホームステイによって、異文化料理を堪能することが出来ました。私のホストマザーは料理が上手で、毎回出てくる中華系の料理はとても美味しかったです。私はお礼として、帰国前に日本料理であるお好み焼きを作っていました。ホストマザーは、最初はおそろおそろ食べていましたが、最後はすごく気に入ってくれました。異文化の交流として、お好み焼きを作って、すごくよかったなと感じました。

一緒にオーストラリアへ行った首都大の仲間たち。留学に行く前は、彼らと関わりを持たないのかなと思っていました。しかし、首都大生はみんな同じ目標や悩みを持っていて、向こうでは悩みを共有し、お互い協力し助け合いました。心の支えとなった彼らがいたことで、オーストラリアをより一層楽しむことが出来ました。帰国してから1ヶ月経った今でも、彼らとは仲が良かったです。

オーストラリアにいる間、英語が聞き取れないことが多々あったり、話せないことをすごく実感しました。しかし、帰国後に、日本で外国人と話したり、外国人同士が話している会話を聞くと、留学に行く前とは違い、格段に英語が聞き取れ、話せるようになっていたことを感じました。1ヶ月留学するだけでこんなにも英語力は変わるのだなと思いました。オーストラリアで過ごした4週間は私の価値観を変えてくれ、すごく貴重な経験となりました。この留学に行くことができ、本当に良かったです。

